



受付第04A0807号
受付日：平成16年 6月17日

品質性能試験報告書

依頼者 株式会社 カ ナ イ
常務取締役 並 木 高 様
埼玉県八潮市西袋717-1

試験名称 枠組壁工法用接合金物を使用した接合部の性能試験

標記試験結果は本報告のとおりであることを証明します。

平成16年 7月30日

財団法人 建材試験センター
中央試験所長 勝 野
埼玉県草加市稲荷5丁目



品質性能試験報告書

試験名称	枠組壁工法用接合金物を使用した接合部の性能試験						
依頼者	株式会社 カ ナ イ						
試験項目	引張						
試験体 (依頼者 提出資料)	<p>1. 接合金物 商品名：プレイヴホールダウン B-HD30 用途：柱脚に使用する接合金物（アンカー型） 形状・寸法：幅45mm，長さ240mm，厚さ6mmの鋼板添え板にU形に折り曲げた厚さ6mmの鋼板を溶接したもの（図-3参照） 材質：SPHC (JIS G 3131) 表面処理：ダクロタイズド処理</p> <p>2. 接合具 木ねじ：六角スクリュー φ6.0×90，10本使用 呼び長さ；90mm，ねじ部の長さ；60mm，ねじ部の外径；6.25mm， 谷の径；4.45mm，ねじ山のピッチ；2.82mm，ねじ先の形状；切り刃先 材質；SWRCH22A (JIS G 3507) 相当品であり，下記の化学成分を満足する。 C (0.18~0.23%)， Si (0.10%以下)， Mn (0.70~1.00%) P (0.030%以下)， S (0.035%以下)， Al (0.02%以上) 表面処理；ダクロタイズド処理 アンカーボルト：M16六角ボルト，材質；SS400 (JIS G 3101) 表面処理；Ep-Fe/Zn 5/CM2 C (JIS H 8610及びJIS H 8625)</p> <p>3. 使用枠組材 たて枠：JAS規格の枠組壁工法構造用製材，樹種；S-P-F，区分；甲種，等級；2級，寸法形式；204</p> <p>4. 試験体数：7体（うち1体は予備試験体） 参照：図-1～図-3（試験体の形状・寸法）</p>						
試験方法	「2002年 枠組壁工法建築物構造計算指針」（監修／国土交通省住宅局建築指導課・木造住宅振興室，発行／社団法人日本ツーバイフォー建築協会）の第V編「材料および接合部の許容応力度等を定める試験・評価方法とその解説」の1.2.3「接合部の基準許容応力および基準終局耐力並びに基準剛性（繰返し加力接合部試験によるもの）」に準じて行った。その詳細を表-1に示す。						
試験結果	試験体		試験許容応力時		試験終局耐力	終局変位	試験剛性
	記号	番号	(Py) kN	(δy) mm	(Pu) kN	(δu) mm	(K) kN/cm
	BHD30-24	0	43.3	5.6	58.4	13.9	77.3
		1	37.7	5.0	56.9	19.5	75.4
		2	43.4	5.3	66.4	30.0	81.9
		3	39.6	4.7	59.3	16.6	84.3
		4	41.5	5.1	64.3	23.4	81.4
		5	34.6	4.0	49.4	10.9	86.5
		6	44.8	6.3	64.2	25.0	71.1
	平均		40.3	5.1	60.1	20.9	80.1
標準偏差 s		3.77	0.76	6.32	6.73	5.77	
5%下限値		31.5		45.3		—	
基準値		基準許容応力 21.0	—	基準終局耐力 45.3	—	基準剛性 80.1	
(注) 基準許容応力は試験許容応力の5%下限値に2/3を乗じた値であり，基準終局耐力は試験終局耐力の5%下限値である。また，基準剛性は試験剛性の平均値である。 参照：表-2 (2/3Pmax時，最大荷重時及び破壊状況)，図-4 (荷重-変位包絡線の比較) 図-5 (荷重-変位曲線，包絡線及び完全弾塑性モデル)，写真-1～写真-6 (破壊状況)							
試験期間	平成16年 7月12日 ~ 13日						
担当者	構造グループ	試験監督者	橋 本 敏 男	試験責任者	高 橋 大 祐	試験実施者	守 屋 嘉 晃 ， 渡 辺 一
試験場所	中央試験所						